

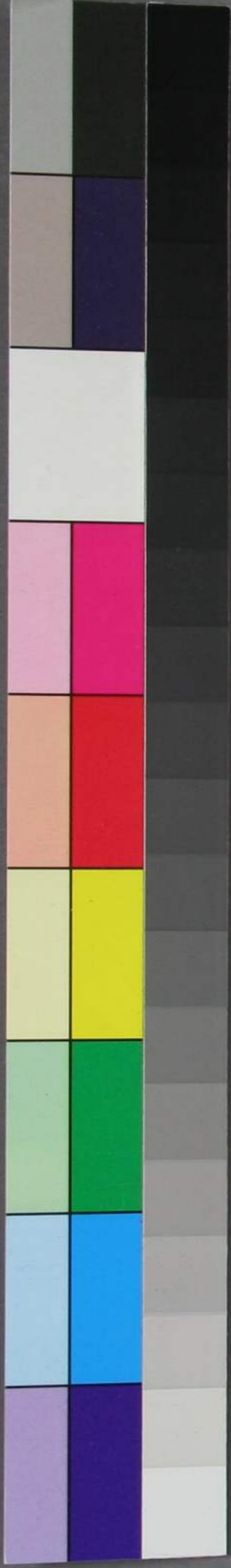
服忌令條例

上

73

6219

2-1



73
6219
卷 2-1



服忌令

去五味均平蔵

高祖母

十月二十日

母方服忌乃一歳迄一月

曾祖母

二十日九日

母方服忌乃一歳迄一月

祖母

二十日
巨父十日

離別之祖母方別令



3-5-27

外祖父母 二十日
百二十日

父 二十日
十二月

養父母 二十日
百二十日

父伯叔父姑 二十日
九十日

丈之父母 二十日
百二十日

継父 十日
二十日

離別之母 二十日
十二月

嫡母 十日
二十日

閏月と不教

父母程慈は兄弟妹ハ事減

初より同居せしきハ服忌なり

閏月と不教

對面是乃ハ服忌清座より通座時服忌受
父死後と嫁ハ或ハ離別ハ女子ハ親ハ子服忌
受ハハ以嫡母ハ親親服忌ハ事減

継

母 十日
二十日

父死後化之極一或ハ継嗣いふ事ハ服忌受(子ハ
継母トシテ親如服忌受)

母伯叔

父 十日
二十日

續管父方同年本職あり

史

二十日
十三日

同月を不教

妻

二十日
九日

婦ト言ハ妻ヲサシテ謂所ナリ

兄弟姉妹

二十日
九日

別腹者別あり

異父

姉兄 十日
二十日

異父ハ服忌受(兄弟姉妹之定也)

智

姪 二日
七日

兄弟姉妹の子ハ同布異父兄弟姉妹の子ハ
別減

従父

兄弟 二日
七日

兄弟姉妹の子ハ同布異父兄弟姉妹の子ハ
別減

● 従母 姉 妹

● 子 二十日 九十日

● 末子 二十日

● 養子 二十日

● 女子 二十日

● 七歳未満

● 孫 二十日

● 曾孫 二十日 七日

家督と定めたる係と此の未子此の未子と云ふは、
嫡子と唱へ妻腹より生れたる嫡子と云ふは、
又云ふ言葉なり

養子の小を——として服忌を割る——家督と
定めたる時の嫡子の服忌なり——

家督と定めたる時の嫡子の服忌なり——
養子の致置——又養子の遺——家督相續の時、養子の致
置候養父母の服忌なり——
女子養子の養置他は、縁従を又時、分地肥當之心
成故養父母の服忌なり——

實初生れても未子小准入

養忌なり——
父母ハ三日遠慮外此親類ハ遠慮一日日服忌なり、遠慮外
ハ遠慮外ニ至ルニ至リ——附小児の方ハ服忌外ハ父母
迄去る付ハ亦三日遠慮外の親類ハ一日遠慮父母ハ
年月致置候——同様に亦三日遠慮なり——

娘の旨服忌日——

娘の旨服忌日——

玄

玄
三日
七日

娘此方膳忌なり

未

未
二日
七日

女

女
三日
七日

実初生れくも未源に准ス

産

産
七日
十日

遠国より産日にて七日迄は八幡あり
荒産同前

血

血
十日
十五日

歎あり

流

流
十日
十五日

歎あり

死

死
一日

安座あり
八幡あり
二階上より安座此方あり
八幡あり
家あり
死あり
八幡あり
八幡あり

踏

踏
合

行水次第

● 聞 忌

遠逝を死去年月を定めて告げられた父母の聞分の日より至るまで親類に知り日教受へ一日教受まで
一 養方より一日遠逝忌服受るとも同所

● 重 服 忌

父代重服忌は母の重服忌より父母死すの日より至るまで一 養方より重服忌のうちは重服忌は一日教受より遠逝忌受へる便日教受より一日教受まで

● 半 減

二十日 十日・七日 四日・三日・二日・一日
尚夜よりより明夜より其止之

一 遺跡相續或ハ分地配當の養子等實父母の如ク一 同姓より一 異姓より

一 養方此親類實此より一 相續を服忌受へ一 實方の親類ハ父母

ハ定式此服忌受へ一 祖父母伯叔父姑ハ半減受へ一 兄弟姉妹相續を

半減受へ一 外乃親類服忌受へ一 遺跡相續せし分地配當せし養子

ハ同姓異姓とも一 養父母を定式へ通受へ一 養方の兄弟姉妹ハ相續を

半減受へ一 外の親類服忌受へ一 実方の親類定式へ通相續受

ひ受へ

一 改葬遠逝一日子ハ不殘遠慮但一 改葬は遠逝一 遠逝ふる及忌め一 保

親類改葬此場一 ある者一 遠逝忌受へ一 忌め一 葬せし親類ハ其場一

あるとも遠逝忌に不及改葬に以るハ他人ハ一 一 日遠逝忌

受へ

臨終とすなり日より至葬日まで同ありふいふ後極ありなり日や
 葬る日と二日此處を過る他人言も改葬乃とにありて固断也
 極あり頃極日より至葬る前より一歳日以内も遠くあり及改
 葬の儀遠き所より元とこより日限候より其日迄思す
 日限もより相断り以後に聞は思すを思すより極あり

●元祿追加

- 一 養父死後養母同居せしむると他(嫁娶すは)債忌受處(嫁)は
 時(時)債忌あり
- 一 養父此妻養いしむると(ふ)死せば(嫡母)に准す其親類(債忌)あり
- 一 父の後此妻を(通居)いしむると(は)對面あり(其)繼母の(債忌)受處
- 一 義絶の嫡子(未)子に准す外此親類(別)債忌あり
- 一 女子(ハ)嫁義絶なり(養)妻あり(ハ)入(身)と(元)家督(相)續(の)せしむると
 養方の親類(實)此(如)相(互)に(債)忌(受)處
- 一 嫁義絶(ハ)も(歸)宗(に)し(て)元(祿)儀(を)元(元)加(を)は(支)婦(立)に(忌)の(日)數

一 養子に成る

一 父の妾腹志

一 養子の養育に成る。一 養子の養育に成る。一 養子の養育に成る。

一 遺跡相続せしめ地配當せしむる養子養育の兄弟姉妹他家へ養ひ

一 養子の相立を腹志

一 同姓を一人の血縁の續き有るに重なり方の腹志

一 名字を授けしめしむる相立を腹志。一 本姓の字を親類に定むる腹志

一 養子に成る。一 養子の相立を腹志。一 養子の相立を腹志。

一 子に成る。一 死去名跡相続のたき免親類に成る。一 養子の相立を腹志。

一 腹志受。一 死去の者此書ハ養母に在りて死す。一 七歳未満の者ハ腹

志受。一 又中日遠く。一 死去此者の親類に相立を定むる腹志。

一 実子の親類ハ父母に定む。一 腹志受。一 継父母他叔父姑ハ半減の腹志

受。一 兄弟姉妹ハ相立を定む。一 半減の腹志受。一 外の親類腹志

受。一 養子の相立を腹志。一 先中清れ其の後家督定むる。一 養母

一 又中日十三月此腹志受。

元文追加

一 妾腹の子を父嫡母嫡母ともいふ。親母を定む時、忘るる日、妾十二月
之月。母を以て親類、庶母、養育、養育、家督相後の書子、乃わ。ある
る。嫡母、此子、嫡母の腹忌に於て、父のまゝ、先考、有る。例。一
絶母方の親類、此の腹忌を。

一 家督相後の養子、乃わ、実方、以て、養母、嫡母、嫡母、腹忌を。一 此、此、考、を、
さ、保、養、子、の、右、を、腹、忌、を、受、る。

一 養子、以て、他、叔、父、姉、兄、弟、妹、人、を、養、は、る。者、ハ、半、減、を、腹、忌、を、受、る。
実方、の、他、叔、父、姉、兄、弟、妹、他、家、の、養、は、る。一 考、を、受、る、別、を、

一 其、身、養、は、る。者、實、方、の、他、叔、父、姉、兄、弟、妹、の、同、人、に、養、は、る。を、
い、わ、せ、其、半、減、の、腹、忌、を、受、る。

一 父、養、子、に、て、其、子、人、に、養、は、る。を、い、わ、す。父、の、父、母、兄、弟、妹、

親、実、方、の、半、減、の、腹、忌、を、受、る。一 乃、わ、い、父、を、養、は、る。者、身、を、養、は、る。の、
時、に、養、父、の、実、方、の、腹、忌、を、受、る。一 考、を、受、る。者、半、減、の、腹、忌、を、
受、る。死、後、乃、わ、い、腹、忌、を、受、る。

一 半、減、を、腹、忌、に、他、叔、父、姉、兄、弟、妹、と、あ、ま、る。母、方、の、他、叔、父、姉、
兄、弟、妹、を、嫡、母、と、い、ふ。例、を、

一 嫡、母、と、い、ふ。の、養、子、に、を、す。時、に、腹、忌、を、受、る。者、乃、わ、い、
父、養、子、と、い、ふ。一 半、減、を、受、る。者、首、條、相、降、り、此、子、を、養、は、る。者、半、減、を、
受、る。い、ふ。一 半、減、を、受、る。者、此、子、を、養、は、る。者、半、減、を、受、る。一 乃、わ、い、
父、は、乃、わ、い、養、子、の、母、方、の、養、子、の、忌、首、條、相、乃、わ、い、乃、わ、い、乃、わ、い、相、無、作、を、

一 半、減、の、通、り、乃、わ、い、

服忌令條例卷之上

● 目錄

壹 貳 參 肆 語 祿 七 八

父母
養父母

嫡母

繼母

離別之母

夫

妻

嫡子

九	朱子
拾	養子
拾壹	丈之父母
拾貳	祖父母
拾參	曾祖父母

●服忌令條例 壹

●父母

一 實母妾之而服者後得夫服忌無異別

寬政六寅十一月羽太左近允聞合

一 妾服之者亦生し後其妾を他に凡有又不可有之 服者一或人其當
 以其其子之爲て實母之 服忌別儀之 儀不

書通之通ハ實方服忌無異別儀

一 實母妾之已他に養子之行りて服忌宜哉

寬政九子九月 秋越駿河守合

一 抽看實家通并古通以吉妾抽看實母之四在亦百一被病死以了忌服如何
請可申後也

書通通實母定式一服忌之而後

一 順一養子之相成以實父一曾祖父之孫之相成以得者服忌
定式

寬政六年六月之辰年以而之開合

一 實父

古辰家用

私儀三男之順一養子之相成以祖父一孫之孫成以得者實父一服忌受
可申心得之而後也

書通通之而後

服忌令條例戴

● 養父母

一 養母之養方親類服忌定式

天明之外年五月大前能治禱一之受合

一 養母之親方一親類忌服如何之也

書通之通一養母之養方親類相成之定式之服忌

之而後

私考云養父母ノ実方ハ服忌全違ハ通父も養子共身也
養子ノ時ハ養父も実方服忌等々一ノ服忌等々一ノ

一 養女致置計云不嫁不娶ノ時ハ養父母之百ノ服忌縁起
預ルノハ又月々服忌

宝曆九年七月神保新式(通)分用各

一 養女之儀養子可致存寄ノ又ハ他ノ嫁子方ニ養女仕置儀共未嫁ノ
別身算出ルル不致リ了服忌令初ノ條ハ通養父母之千日百又十日指下
但縁起預(通) 仰付未嫁ノ儀不預リ升養女多ク若養父母也
又千日服十三月支可申儀与存付

書由(通)ハ養女致置身一ノ縁後之ノ不及算養子不致出得也

二千日百又千日ノ服忌等々

但縁起預(通) 仰付未嫁ノ儀不預リ升養女多ク若養父母也
之ノ服忌等々

一 養女成他ノ嫁リ時養父母服忌定式

寛政六年十一月被時作(通)分用各

一 類女之相預儀之縁後仕置相預用(通)分用各ハ養女故親親此(通)ハ服忌相更
儀等(通)分用各

書由(通)ハ縁起等(通)分用各ハ養父母ハ又千日十三月其外
養子親親相(通)分用各ハ服忌等々

一 養女家化之時實親親服忌中藏
實及五月 在國安房名分同各

一 養女之相成他上嫡子親親書之母一書實書則事一之在房亦在母之
親實忌服相忌也

書由之通一書女之相成他上緣分其子母之養父實親親
相成之定或之服忌清之實方八事藏之服忌之儀

一 養母實小婦之亦孔養父死云以復他上嫡小實婦之
子收忌中藏

實及八月六月四日國田友吉分同各

一 私家之養母實中婦之亦在右養母因田為監死云後他上嫡中亦婦上
八私家依婦之收忌交可也

書由之通一實婦中藏之服忌也

一 養母他上嫡上得去其後居房之役因房中之一全服忌

實曆二申二月 猶願忌也

猶願忌也

一 右在房之死後國田書母依水谷之通中一者且再緣仁以猶忌也

右子善而能死云位以有右養母是古也言以引以意中亦右養母其相果
中俟他日嫁也言以得之是言也服焉服焉八清不中之十九再是言也言以引以
同后位而有若服焉言以引以

書通之通八養母外嫁也死于後在何同后言以引以

一外外上嫁也得中養母之福難也若服焉不及也言以引以

分地配當之節子又八養母子之養母他日嫁也言以引以

服焉

寶曆九年七月之世出雲吉川開成

一服焉令進也一因養父死云以後養母同后世須也言以引以亦他上不嫁也言以引以
服焉之福也他上嫁也言以引以服焉之福也言以引以
右者是跡相續也中分地配當之養子也言以引以養父死云以後養母
他日嫁也言以引以服焉之福也言以引以

書通之通三三條

一右養父養善子之養祖父也言以引以以養父死云以後養母他日嫁
也得中不忌服清也言以引以服焉之福也言以引以

書通之通八養父養善子之養善父死云以後養母

他日嫁也得中服焉之福也言以引以

一 右之親母養父死之後他は嫁去後離別仕養子と云ふ所同居
仕置有之于一度他は嫁りて忌服無事居りて

書如し通ハ養父死云以後養母他は嫁りて其後同居
同居被りて一旦外は嫁り得ず養母之繼親也之有
服忌也

服忌全條例之三

嫡母

一 養子他は養子許実家嫡母無服忌

寛政八辰六月 年安武劫少痛方用各

一 養服之子他家改相續り得ハ実家嫡母之忌服無之也

書如し通ハ云作

一 嫡母之養母相定ハ得ハ嫡母方親於服忌宜或繼母之
養母之定ハ得ハ繼母方親類也服忌

寛政六宮周十一月 仙石海光也方用各

一 嫡母及父養母之定所ハ母ヲ親類ハ服忌受継母と養母之定所ハ母
方親類服忌受之儀ト相心得ル

書通之通之旨

一 嫡母之養以迄之養母と不相定時嫡母方親類之服忌
其後継母と養母定所ハ継母親類服忌定式

寛政六卷八月之定所ハ此也

一 嫡母之養以迄之養母病死仕其後継母之養母相定所ハ嫡母之
親類未忌服也此所ハ父養母之相定所ハ養母之親類定式之通也服清儀
儀之定所ハ又ハ嫡母と父養母と不相定所ハ養母之儀之定所ハ嫡母方之

親類定式之忌服清儀之儀之定所ハ

書通之通ハ嫡母死後継母之養母之定所ハ養母方之
親類定式之服忌也

但寛初之嫡母及養母と不定時ハ嫡母之親類服忌受之

- 一 節月有之之忌服之子嫡親之養以迄所ハ親方服忌定式
- 一 寄子之祖代中書藏節月有之之ハ実方之服忌
- 一 寄之子嫡親之不養時ハ嫡親中十二之服忌
- 一 嫡母之子継母之養以迄所ハ継母又月之服忌

室曆又及月 始回相挽書及所開合

一 妾服之其夫嫡母繼母凡養母之定所忌又十日服十二月可滿之
母方之親類之服忌養實各別家督相續之節ありあつたる
嫡母之忌母之服忌於くも父之植居有在り 但純母方之親類服忌を

所書之通服忌令之是れ妾服之其夫嫡母之繼母より
養母之定所時ハ右書母方之親類ハ家督相續ハ養母之通
實あり相續ハ服忌受之其方之親類ハ右書日而後親類
之書載儀福之節日之由在り 其方之親類ハ父母他叔
父姑ハ半減ハ服忌受之以外之親類服忌之由在り

但右書親類書之不書載程ハ程キ節日之由有共高キ実母ハ
服忌又十日十二月隔之其外之親類服忌之由在り

一 妾服之其夫不書之親あり不相受ハ得者嫡母之親母之忌十日
服之十日受之ハ嫡母繼母方之親類服忌之由在り

一 嫡母之子繼母之服忌於くも父之植居有在り此在りハ嫡母之子
父繼母之養あり相受ハ得ハ儀之由在り凡ハ借ハ繼母忌又十日
服之三月借ハ右養母之相受ハ得ハ親類ハ六個月忌之由在り
実方之親類ハ忌或ハ服忌之由在り

右書有能婚同婚者猶生ハ時与ハ本大忌之人ハ礼致進之ハ

一 妾服之其夫不書之親あり不相受ハ得者嫡母之親母之忌十日
服之十日受之ハ嫡母繼母方之親類服忌之由在り

定式

延享元年辛丑辰長帝一合

一 妾服之女子生不事親育也清中妻養母之孫成右養母之兄弟其
外親類相承之定式一忌服之

書通之通妾服之女子一多免不妻父又養母之定例ハ
養母定式服之女子ハ養母方親類是又服之定式ハ

私考云布妻ハ嫡母之妾ハ子嫡母ハ長母を相承之ハ附嫡母方親類相承
定式服之女子ハ實政六宮十二月山村十條在也其合ハ例有之文略ハ

一 妾之女子又中妻之養母之定例ハ妾之親類服之

寛政六宮十一月山田九郎一合

一 妾之女子又中妻之養母之定例ハ妾之親類服之

但實方親類ハ不承之者故服之女子ハ勿論ハ妾之相承得候

書通之通之儀

一 妾之女子又中妻之養母之定例ハ妾之親類服之

寛政三年八月松平妙波一合

一 妻媵多由生不盡養母之父母生之內安置他日養子之家督
相續後者ハ右養母之服忌定式之通ニ于日百半日備了中ハ右親母
之方半未子之忌服可申也

一 養母之兄弟ハ他叔父姑ノ類ニ屬シ他日養子之家ハ半減之忌服
清儀也

書由之通ハ妻服之子女之妻也養母之定置他日養子
之相續後時ハ定置初之養母服忌之及少也
但右養母方之他叔父姑同机之奉之儀

● 服忌令例條四

● 純母

一 純子養服忌

寛政五丑巳月 井伊吉勲少輔方寸合

一 純父母之服忌ハ服忌令之有之儀右純子之忌服父母之音之儀右服忌
令之音有ハ純子之忌服ハ音之儀相續後者宣儀也

書由之通之儀

一 純母ハ養母相續時ハ養母計服忌定式親類各服忌

寛政六寅三月 杉寄侍七郎ノ用合

一 養母

右是也 養母之礼 私家像多 少者 養育出 欠求 焉 女 世 養母之 相定 中 作 是 也 養母 親類 忌 服 清 之 中 以 養母 忌 親類 忌 服 忌 之 也

書通之通ハ父 養母之 養母 相定 以 的ハ 養母 年 定 式 之 服 之 之 養母 忌 親類 服 忌 之 之

一 養母之 養母 之 相定 以 的ハ 養母 年 又 月 之 服 忌 并 嫡 子 之 忌

養母之 養母 子 定 以 的ハ 一 九 之 忌 服

寛政六 亥 九 月 德 傳 大 學 子 分 文 合

一 養母 惣 願 本 妻 之 服 之 亦 生

右 養母 之 忌 服 計 但 養母 之 養母 之 定 以 的ハ 養母 年 又 月 之 服 忌 并 嫡 子 之 忌 親類 之 忌 服 之 之 相 心 傳 并 生 之 也

書通之通ハ父 養母之 養母

但 右 亦 妻 之 忌 服 計 但 養母 之 養母 之 定 以 的ハ 養母 年 又 月 之 服 忌 并 嫡 子 之 忌 又 ハ 家 之 嫡 子 之 忌 服 計 但 養母 之 養母 之 定 以 的ハ 養母 年 又 月 之 服 忌 并 嫡 子 之 忌 有 以 養母 之 也

右 養母 之 通 布 又 之 同 養母 之 養母 之 定 以 的ハ 養母 年 又 月 之 服 忌 并 嫡 子 之 忌 廿 日 九 十 日 之 服 忌 之 之 也

但 養母 之 養母 之 定 以 的ハ 養母 年 又 月 之 服 忌 并 嫡 子 之 忌 之 也

一 先 妻 之 子 養母 之 養母 之 定 以 的ハ 養母 年 又 月 之 服 忌 并 嫡 子 之 忌 親類 之 忌 服 計 但 養母 之 養母 之 定 以 的ハ 養母 年 又 月 之 服 忌 并 嫡 子 之 忌

寛政二年十一月月日大元元通不問合

一 先妻の遺子其父後妻より養母に定り給ひ養母に服忌并猶之養母に親類に相与結忌等一親類書云養母才書云一親類に名前の子書或実方之親類と母方子稱一各前云裁相与之服忌結作不

先妻の遺子其母に養子に定り給ひ養母に忌服ハ十月十二月に猶之其外之親類ハ服忌等一実方之親類相与定或服忌言依

一 先妻の遺子其母に養母に定り給ひ家親相續之子及他に嫁小女子ハ父母之服忌其外之兄弟ハ父母之服忌

一 右養母才定り他に養子に系り猶之ハ父母之服忌

一 右養母才定り給ひ家親一男子及他に嫁小女子に其子の祖母對一服忌定式

一 妾の子嫡母と親母に定り給ひ右妾一子に其子の祖母對一服忌定式

寛政四年十二月日細川越中守の用合

一 先妻の遺子其父後妻より養母に定り給ひ養母に服忌并猶之養母に親類に相与結忌等一親類書云養母才書云一親類に名前の子書或実方之親類と母方子稱一各前云裁相与之服忌結作不
先妻の遺子其母に養子に定り給ひ養母に忌服ハ十月十二月に猶之其外之親類ハ服忌等一実方之親類相与定或服忌言依
先妻の遺子其母に養母に定り給ひ家親相續之子及他に嫁小女子ハ父母之服忌其外之兄弟ハ父母之服忌
右養母才定り他に養子に系り猶之ハ父母之服忌
妾の子嫡母と親母に定り給ひ右妾一子に其子の祖母對一服忌定式

書通之儀

但父之植治有子有之り得て何事も実母同所之養育成りて家督を代
と有清りて養育成りて先言一子ありて三月一日之儀清りて御代

書通之儀ハ実母同所養育成りて三月一日之儀清りて御代
之儀

一 右之儀書死云之時後書之養育成りて御代之儀清りて御代
相續りて御代之儀清りて御代之儀清りて御代之儀清りて御代

書通之儀ハ実母同所養育成りて三月一日之儀清りて御代

一 右之儀書死云之時後書之養育成りて御代之儀清りて御代

祖母定式之儀忌と清りて御代之儀清りて御代之儀清りて御代
同所之儀清りて御代之儀清りて御代之儀清りて御代

書通之儀ハ実母同所養育成りて三月一日之儀清りて御代
中定式之儀忌と清りて御代之儀清りて御代之儀清りて御代
養育成りて御代之儀清りて御代之儀清りて御代之儀清りて御代

一 妾腹之儀有之りて御代之儀清りて御代之儀清りて御代
書通之儀ハ実母同所養育成りて三月一日之儀清りて御代
之儀清りて御代之儀清りて御代之儀清りて御代之儀清りて御代

一 己兄之養育成りて御代之儀清りて御代之儀清りて御代

寬政六年三月朽木隠岐守分聞合

一 陽政書嫡子去休書儀ハ陽政書子之出有儀在陽政書那原位之去休書ハ
中ノ所望自天明六年辛巳月陽政書書被難儀同辛巳七月去休書
養子親之通子作書之後陽政書書被難儀之通子作書在陽政書之後書ハ
去休書為之儀母相忌忌十日服二年日之儀所ハ

書通之通子儀

一 己化ハ養子之行實書儀父母之服忌

寬政八年三月梅葉主祝分聞合

實書儀父母

右同原儀在辛巳之後儀ハ家ハ養子之儀親ハ者儀父母ハ服忌水儀
儀

書通之通子儀

一 儀ハ養子之行以後書儀母死云後書儀ハ儀母服忌宜儀在儀母
ハ云ハ又ハ養母子定ハ儀ハ養母年儀忌宜儀

寬政六年十一月仙石源九郎分聞合

一 儀ハ養子之儀儀儀養母死云後書儀ハ儀母服忌宜儀在儀母
中儀ハ又ハ是ハ儀ハ養母之儀ハ子ハ十三日忌服儀儀ハ幼ハ時ハ親親書
儀ハ儀ハ養母子之親親儀儀ハ養母子之親親儀儀行書云云ハハ

書通之通ハ他母定式之服忌之儀

但養父他母より養母定式時ハ養母年又十日十二月
服忌清之儀ハ養母親類ハ服忌清ハ事故後ハ

養母親類ハ服忌清

他母と養母相定其後他母養子の行在室方養母嫡母
他母無服忌

寛政六年十一月 仙石治虎 記

一 二男三男ハ他母を養母定式其後他家ハ養子成り得ハ其養母定式方

養母之唱之千日厄又千日ハ其城忌服更親類書ハ其室方養母と書
其ハ其又他母之千日之千日ハ其城清之儀ハ同前ハ他母嫡母
可欠養母之室方後他家ハ養子の相成在實方ハ養母親類ハ服
忌ハ如何清之儀ハ

書通之通ハ他母養子ハ其家更相定其儀ハ其室方
養母嫡母他母無服忌之儀ハ其家更相定其儀ハ其室方
儀ハ其家更相定其儀ハ其室方

但親類書ハ其儀ハ其家更相定其儀ハ其室方

養母致死他母と養母相定其儀ハ其室方
服忌同前後ハ養母親類無服忌

寬政六宮三月一永見仔孫与方聞合

一 養父 養子
養母

右養母歿死云以後養父歿再歿以升終母名在養父養母上定而之右養母
官親類之相与之服忌云在左先左養母親類相与之忌服請以左

書通之通六宮初之養母官親類相与之定或之服忌可
之之終母之左養母相定以之左之養母官親類之服
忌云

● 服忌令條例 五

● 離別之母

一 離別之母服忌令條例

寬政六宮八月林肥後守公聞合

一 実母離別之母母子方方定或忌服文係亦亦実母方親類歿
同和云云

書通之通之儀

一 離別之母方通路不致其服忌定或

寬政五丑七月同野肥前守公聞合

一 離別之母子親類に不致通疏の定式に服忌の儀

書通の通ハ離別之母子親類に定式に服忌の儀

一 離別之母子他に嫁りて服忌定式

寛政六宮九月之浦千吉同合

一 離別之母子他に嫁りて

右母之兄弟叔父に續儀礼忌服忌の儀

書通の通ハ離別之母子他に嫁りて母子親類に定式に服忌の儀

寛政又丑三月真田右兵衛同合

一 母之兄弟叔父に續儀礼上他に嫁りて母子親類に服忌の儀

云々

書通の通ハ母他に嫁りて母子親類に定式に服忌の儀

一 實母離別之遺妻に養育し居る實母親類に服忌定式

養育ハ養母身服忌定式其親類に定式

寛政己子十二月細川越中守同合

一 實母離別せし遺妻に養育し居る實母親類に諸親類死云々の儀

半減之亦ハ又ハ繼母之養ニ成ルニ及テ繼母亦猶親類忌忌ニ甘離別
之母ノ親類也之定式ノ服忌情ニテハ

書通ニ通ハ実母離別ニシテ仍親類定式ノ服忌情ニ
養母亦ハ養母身定式ノ服忌情外ノ親類服忌情ニ

一 右後妻之養ルル子ノ離別ニ繼母死云ハ仍忌服半減之ハ
書通ニ通ハ定式ノ服忌情ニ

一 養養子ノ書離別有量情忌

寶政六年十一月收野依信當ノ問答

一 父未嗣実子女ノ收養養子婚儀終ニ後夫婦不睦ニ及破初有女子
親類ハ元化也又ハ婚儀未終間ニ仍合有女子他ニ是時ハ養父ノ実子女
兄弟ノ續ニ取ルルニ終ニ完初養養子ノ親書ハ婚儀破離間屆有
時ハ相承ノ忌服如何ナリ有以答レハ

書通ニ通ハ初ニ婚儀終ニ終ニ書離別ニ書服忌情ニ

一 離別ノ夫婦ニ女子ハ仍合有女子先身服忌情ノ別

天明四年八月戸田國瑞書ノ問答

一 雜別之書一子男子ハ父ハ高儀並女子ハ軍方連綿ハ存子ハ
 相争之兄弟ハ服忌別之書ハ
 一 雜別之書一兄弟ハ雜別之書一子女子ハ伯叔父姑之亂是又相争
 服忌別之書ハ

書通一過ハ二ヶ條雜別一書及別之書一書或一服忌之書

● 服忌令條例 六

● 文

一 入文之申儀ハ事

天明七未六月之浦長門古分噺各

一 其年先文之娘之御目之父入文之書養儀ハ御目之父死至儀了
 絶大定或一忌服之申儀

書通一過ハ入文之申儀
 御家ハ之申儀入文先文之娘之養子之定ハ得養父
 定或一服忌絶父之定ハ絶大定或一服忌之申儀

一 絶納不取書其書養子願相所ハ一又定或服忌

天明七未七月大之保仔豆書分用各

相争之服忌之書

大之保内記

因紀 記書各小件是言妾服之娘服忌之儀如何相心得りか

但仔細是古分因紀に養子有れば是因紀分右娘に結納し之儀未
請不申候

書通之通ハ御親子也

御可有得申儀則從儀先か

其儀ハ其子也定式ハ日取之儀也

服忌令條例七

書

一 妻之父母至服忌

寛政又丑四月菅谷亮處下用合

一 私家実父并上同階古け御親名相勝之申若病死仕り了忌服ハ儀如何

此處ハ

書通之通ハ曰男之儀有服忌不度如何候

一 妻之親類至服忌

寛政三亥十月由藤九京方用合

一 妻之兄死仕時至服忌清りか

書通之通ハ其妻子之親類服忌也

一 妻不儀有之申及被害り希其子并妻ハ親類服忌定式

天明四年十月松平出羽守分守令

書儀不儀一儀有之 及及教書以節其子孫之右書之親類定式一過
忌服受少事一忌服以之嫡母繼母之忌同執之也

書函一通一書函儀有之 及及教書以得其子孫右書之
親類定式一過服忌言且平子一多免嫡母繼母之忌得之服忌
不及少後

服忌令條例八

嫡子

一 嫡子致退身以時系子一服忌

天明四年又月六日云庫頭分守令

一 六日云庫頭嫡子孫之由當時右近中一以病身有天明元年丑年十二月日
在預退身仕女者百一相受儀以在儀節 兵庫頭定式一忌服請可也
申減之忌後受可也

書函一通一嫡子退身致得子孫子孫定式之服忌
子一儀

一 嫡子繼母之養相成以時嫡子服忌定式繼母之養母之
不定时之繼子之服忌

寛政六年九月 能勢大守分守令

一 父 物願奉書之儀並生

在本書之子死去之時徳母之身之免未あり忌服計の清下り又ハ家ノ
嫡子ノ儀之由程身之免未あり忌服計の清下り又ハ家ノ
廿日九十日ノ忌服可有此程也

書面ニ通徳母ノ及親母之定當時ハ徳母ノ身之免未あり
九十日ノ忌服有之

但徳母ノ及養母ノ身之免未ありハ純子ノ忌服有之

一 女子他家ノ嫁トシテ服忌之儀

寛政六宮七月石川好監方用合

一 男子他家ノ養子ノ相成トシテハ実方ノ親類父母ノ外ハ其戚ノ忌服有之
此有准女子他家ノ嫁トシテハ実方ノ親類トシテ忌服有之ハ其戚ノ忌服有之
ハ親子トハ遠トシテ左ニ定之忌服有之ハ其戚ノ忌服有之

書面ニ通ハ女子他家ノ嫁トシテハ其戚ノ忌服有之
ノ忌服有之

服忌令條例九

朱子

一 他家ノ養子トシテ二男三男服忌定之

天明三年三月 長坂忠七師の聞合

一 他家に娘ありて是改男之男死云々 師実方父娘忌之事

書通に通他家之娘子を改男之男死云々 師忌十日

服二十日之儀

一 他家に養子遺り未子養家之嫡子に相定りて実方云々 未子

服忌定式

寛政又丑十一月 藤田豊前守の聞合

一 他家に養子之者未子云々 其家之家督父子に嫡子と定計之儀

得て未子定式に服忌清りて家督相續し云々 實父母之言に嫡子
に服忌清儀哉

云通に通他家に養子に相越りて家督相續し云々 實父母之言
未子定式に服忌之儀

一 未女他家に娘女之者を作りて服忌定式

寛政七年十一月 瀬名源三師の聞合

一 私未女他家に養女之者を置りて此師病氣云々 申儀若死云

此に私忌服衣し通清り申儀

忌十日
順二十日
書通通之候

順忌令條例十

養子

一 養子順忌定式

一 養子忌順 廿日

右養子忌順者相果作候一、右自及一忌順受り多直度候所

家督相預相定し得者書通通之候

一 養子行候候、不相成并養子順忌定式

家政六云又月酒色等事明下定候

一 養子相順家候、^前養子親類忌順結り候

出通通ハ家督相預一養子相預り上ノ家督一前後
不相養子一親類定式一結忌之候

一 一旦致養子又下他日養子也り付定候一養子忌順忌

天明二年三月各階之節ノ聞合

一人之辟代養子之仕進与右之親子と又他に養子之有るは時以前に
親父と又先子と有る遺り養子之親忌如何相心得下りし

書面一通ハ家御ニ養父と相成之儀忌言ニ

一 養女版忌言式

寛政五丑八月酒造久傳合用合

一 養女

右父忌版日如何清下りし

出通一通ハ十八日之午の儀

一 養女一通ニテ養方半減實方定

寛政八辰二月林 肥後守合用合

一 養女相成実方之他叔父姑并定式一忌版清下り又半減一忌版

~~~~~

沙書面一通ハ養女一通ニテ得テ養方忌并姉妹并半減一  
忌版清下り又実方親新定式一忌版又少子實方之親類  
半減一忌版ニテ

叔父養家親類中ハ實方前版忌言式并叔父歿並而子  
養家之書之字如時ハ是之實家版忌言式

天明二年正月 杉平長門守公史合

一 叔父他養子之系有之りしと稱之居席は右叔父養家之無之り得て奉成之暇忘り得て居席より六定式一忌服一忌得居在り右由生之子は延平より得て養家より奉成忌服等儀一忌得居在り右由生之子は延平より得て可寄り奉成忌服等儀一忌得居在り右由生之子は延平より得て

云相之通ハ叔父他日養子之系に稱之終之ハ叔父定式一  
服忌之儀

但右叔父養家之由生一子孫を以て養家之奉成儀一節も之  
上中延平定式一服忌之儀實家に連席は上中一節一奉  
之ハ且女子養家分他日嫁之儀一ハ養家一奉成儀一節も之

養子之不再裁以前奉成一忌男他日養子之行ハ忌服忌奉成

天明四年七月 沙贈阿彌下用合

一 其身養子之系有之りしと稱之居席は右叔父養家之無之り得て奉成之暇忘り得て居席より六定式一忌服一忌得居在り右由生之子は延平より得て養家より奉成忌服等儀一忌得居在り右由生之子は延平より得て可寄り奉成忌服等儀一忌得居在り右由生之子は延平より得て

書由一通養言是日他家相續一類子之無裁儀一節も之  
養言是日他家相續一類子之無裁儀一節も之

養子之不相裁以前奉成一忌男他日養子之行ハ忌服忌奉成  
服忌之儀

實政八及女月滿則雲當分用合

一 其身養子之不相感以而實子之由生  
九女之而在而生之子  
養子之兄弟姊妹中他叔父之宿相感得志  
忌服如行相心得可也

書也通之義服之子父之實家之在生也得夫父他家相領  
之子養子之兄弟姊妹父之養是方有他叔父如相感  
定或一服忌之儀

一 初之聲養子致難祿右聲養子之子也後之聲養子之  
絶父權在服忌

實政六及女月一全同能當分用合

一 其身聲養子儀如妻之先夫之娘人育之右之娘也致為死  
幼孤先夫之養父心極之愈養子所之右娘喪之則致如死  
之為中行之後相如也

言也通之先夫之娘為中後父之絶父之當右娘死云  
的ハ服忌之儀

一 初之養子致難祿右養子之子也後之養子之子也續  
相也

寛政六宮十一月 仙石法良卿 同合

一 養子之男子被出仕 右 養子養父之志 実方と云ふ所は 侍は 縁起  
六相成不 亦養子といふ 侍所文 男子といひ 養子といふ 他文相  
縁起成忌服之相 侍所清少云

云通之通ハ 服忌 及 所 侍 儀

一 初之 養子被退云 後之 養子ハ 續柄云

天明七未丑月 戸田采女 同合

一 娘日 養子 御相 養子被退云 右 娘ハ 又 外方 致

養子被出 初之 養子 後之 養子ハ 兄弟 定式

服忌 清少云

右 娘ハ 始 養子ハ 文 婦ハ 縁起 兄弟 定式 服忌 清少云

云通之通ハ 娘 養子 被出 右 養子 被出 御子 相用 九 儀

得ハ 誰 別 誰 後 養子 兄弟 養子 服忌 及 所 侍 儀

書通之通ハ 前 條 九 儀 兄弟 養子 服忌 及 所 侍 儀

一 長女ハ 養子 婿 子 被退 不 次 女ハ 養子 養子 兄弟 定式 服忌 及 所 侍 儀

天明七未九月 細川越中 同合

一 田子等一者娘之聲 養子いふ一 右聲稱子病氣之 婦子思身其  
夫婦共其任其家之務有りの又次女之聲 養子致取相續致とせり  
初一 聲養子之席ハ後一 聲養子之ハ相子之兄子定式一 忘腹更ハ  
書如一通ハ初一 聲稱子と後一 聲養子とハ相生之兄弟  
半減ハ指忘之ハ初一 聲養子一 書ハ家ハ娘ハ後一 養  
子とハ兄弟定式一 指忘之ハ

一 他家養子之行 実家一 兄相果相續一 者一 養子ハ  
一 又書子ハ一 一 後ハ初一 養子無指忘

寛政六宮六月 杉平丸之傳ハ用合

一 二男之他ハ養子之基ハ凡 実家一 兄相果相續一 者一 養子ハ  
又養子ハ一 実家ハ之所ハ相續一 者一 養子ハ親子一 忘腹  
以聲ハハ

又如ハ通ハ家初一 養子ハ有養父子一 縁相雜ハ故腹  
忘

一 聲養子雜縁一 書續揚

寛政六宮九月 小出新之傳ハ用合



解養子者其妻と改葬所は得ず其父は娘と成相出さず  
如行清らば右養子一妻妾子一後妻と云ふは他母一妾と續  
否忌後如何也

養父娘離縁は事一以得ず親兄弟と云ふは孫と云ふ  
其後妻又ハ妾と云ふは子續也

● 服忌令條例十一

● 夫一父母

一 夫實子父母忌服忌

寛政六年十一月 松平河波重宗用合

一 次男之他家改葬者一妻妾一実父病死一弟男一服忌請  
作也

出向一過ハ服忌也

一 夫實子一養母忌服忌

寛政六年九月 松平因幡守公定合

夫實子一養母死云ハ所相忌文字一如何可仕也  
何一雜

出向一過ハ服忌也

一 父一嫡母忌服忌

寶曆六年二月松浦丹波守忌服忌

一 松浦嫡母御持者二十日二十日忌服清一以松浦守忌服忌

以松浦守忌

書如通之儀

天明四年八月土改最濃音少忌

父一妾身一寶母一忌服忌式一通文一以儀一其書如通

忌服清中一右一最濃儀得在忌服忌式一以儀

書如通之儀一實母服忌

一 尊養子一實父母一對一其書忌服忌

寶曆五年六月大澤敷馬方用衣

一 尊養子一其成り者一實父母病死一其書忌服忌

云西通一尊養者子相成り者一其書一實父母

服忌

一 結納不請用衣一又服忌

寛政八年六月 稽生丸也 不用名

一男

但既末経用と清内男死去り忌服如何清下り

書通し通し服忌等

一 婚姻不相禁因申之文一父服忌等

天明七未四月 西詰伊勢守公家

一 何某之嫡子と娘縁組相禁後用西詰七相無り迄之末婚姻相禁申下り  
既末経用意因之終之何某死去り希娘官下男一忌服如何相心得可申下り

書通し通し縁組相禁後用依未相無り迄之末婚姻相禁  
不申下り得申之文一父服忌等

一 婦人忌服請方

天明七未七月 布多中務大輔公家

一 婦人他處に嫁し之を元親本成り不変故之忌服不減文一親族  
忌服書あり請方申之相心得居申下り

但文一父母并一忌服有之申下り不整在之存居申下り

依之其子一原に祖父に定式之申下り婦人他に嫁し之を元親本成り

子儀言定武婦妹一子一物始一忌服但叔姑一子定武奉婦公

書通一通之作

服忌令條例十二

祖父母

一 父有祖母家女多一服忌定武

寛政六定四月 松平花澤吉分開合

一 父 子 孫

右妻死去一子子ハ実母一服忌交り得才孫ハ一妻多一祖母定武一  
忌服一傳ハ且右妻節目ハ妻者一女子得才書と一妻との遠一妻  
親類親類多一書也一相一也一服忌清ハ且右妻節目ハ妻者一女子得才  
一子親類親類多一書也一相一也一服忌清ハ且右妻節目ハ妻者一女子得才  
以開合作記開札凡一通

書通一通ハ祖母多一義節目一女子別祖母中定武  
一服忌言ハ其子一親類書一子戴袖一節目ハ得才  
一妻有親類ハ服忌ハ及何也

右内親礼一通祖母之式一服忌之旨孫之旨孫の旨祖母言祖母一  
服忌之旨一り右親一之旨夫他家養子之旨或其子之旨右親之旨  
一旨実子祖母一服忌清り

右内一通一父方言祖母言祖母家女之旨一或一服忌  
清り一或後一之他家相續一養子之相一其子之旨実子  
祖母半成一服忌之旨

一 母方祖母家女之旨一服忌之旨  
實及又之旨一本之旨大和旨之用各

一 母方祖母家女之旨一服忌之旨  
山書由一通一母之旨一其母之旨得一此祖母之旨  
節目一之旨別祖母之旨一或一忌服之旨

一 聲養子一子母方祖母家女之旨一服忌之旨  
宝曆九年七月 神保新之旨一用各  
一 養父一之旨服忌之旨一俄一服忌令一之旨相見一之旨聲養子一之旨養父  
一書一母之旨一男之旨一續相成可也  
但右養父一之旨聲養子一之旨子一之旨母方祖母一之旨續一之旨我母方  
祖母之旨一服忌清可也

書面し通ハ妾膝之腹ハ舞養子改付ハ右様ハ母ハ妾膝  
男女ノ名目ハ有クハ男妾事ノ也ハ積シ此等ハ在リ得ル  
雅及於所儀

世尊養子有クハ子トモハ母言ハ祖母言ハクハ血脈  
一事ハ元母言ハ祖母言ハ式ハ服忌ニ作

一 乙他ハ養子ハ併養母ハ養母祖父服忌定式有ク養母ハ  
実方服忌有ク

官政ニ云ク九月 大久保豊前守有ク

一 養母ハ親母ハ祖母ハ積言定式ハ通女ハ女子ハ忌服隨養母ハ実母ハ

養母ハ實方祖母ハ積言定式忌服ニ作ル

出向ハ通ハ養母言ハ養母定式服忌ニ作書面ハ通ハ  
父ハ養子有クハ養子ハ時ハ養父ハ実方服忌有ク  
二 准ハ養母ハ実方祖母服忌有ク

一 乙他ハ養子ハ併養父ハ実方祖母服忌有ク

官政ニ云ク十二月 杉平他存有ク

父養子有クハ其子ハ又養子ハ時ハ養父ハ実父母兄弟姉妹其外  
養父實方親類死云ハ時右養子ハ服忌有クハ相心得宜ハ

出而通八服忌等

但實字有子續有之也其後一服忌等

一 已他上養子行養母常祖母出女服忌等

寬政五己八月 松平大炊言

一 養母常祖母

右一養母一實母前女之也存下忌服以同令

書通一通八養母常祖母出女之也得八服忌等

一 已他上養子行實母祖母出女服忌半減

寬政五丑丑月 戶田中誓人同令

一 實母子之祖母前日之也一得八親類書之出女之也裁以之者養子  
一 譯字半減一忌服清作

書通一通八實母常祖母出女之也半減一服忌等

一 已他上養子行養父常祖母出女服忌等

寬政六己二月 三浦志摩吉人同令

一 養父之實母之親祖父之也言以此下其子養子亦得八祖母忌等

久忌服請作

書通通八養子祖母壽者得中服忌

一 已他上養子之行喜母一養子祖母家女服忌

寬政又丑三月阿部大學公用

一 紀伊中納言殿家老水野對馬守養祖母私養母之正在私續之八養祖母  
續之相成可申忌服由向令申作

書通通八養母一養母壽者得者祖母之八忌服忌

十不及少作

一 已兄一養子之成時實母養子祖母之所得在室方實母

一 服忌

寬政六癸三月宮城孫一節不用

一 養子祖母實母

右通通人書通續有室方忌後丑十月十三日續之五  
作

書通通少作

一 已兄一養子之成時祖母八養子祖母相為服忌  
定武



寛政六年二月 池田丸門 今歩在

一 祖母

案 祖母之儀得并私実又備中と養母之相定ハ孫ハ私係兄弟ノ  
養子之相成ル旨祖母ノ儀ニ在ルハ忌服ハ係汝也知ルハ

書由一通ハ養母定戒ノ一 服忌ニ由儀

一 父養子之儀ハ実方祖母家女服忌半減

寛政六年七月 因申 勘定書 同令

一 父養子之儀ハ実方母家女忌服ノ事

書由一通ハ其身實子ハ得并父ハ一 実方祖母家ニ由儀  
減一 服忌ニ由儀

一 父養子之儀ハ一 実方祖母父服忌半減

寛政六年七月 坪田 大流 吉 今歩在

一 勘定書 實父名在丹波吉儀病氣ノ事ハ病死ノ事ハ一 勘定書 實子由儀  
鉄之節 儀忌服ノ儀ハ係并係并書忌服相成ルハ

書由一通ハ祖母父半減ニ由儀 服忌ニ由儀

但原坂ノ音半後志云

一 父養子ニ父ノ實方祖母服忌中減

天明己辰四月石河去儀書ノ聞合

一 父養子ニ其母實方ニ父ノ實方母死云ノ養祖母ノ忌服案  
ノ通儀儀云

云云ノ通ハ父ノ實方祖母中減ノ服忌ニ作

一 父養子ニ己ノ父他日養子ノ行ハ時父ノ實方服忌中減

一 父養祖母ニ且本書ノ養ニ成ル上養子ノ母ノ得者父ノ

實方祖母服忌云

寛政六癸十一月越川長門寺ノ聞合

一 實父養子其母ノ又人ノ養子相越ル節實父ノ實方上實祖母ノ

忌服半減云又ハ一向云

但右實父本書ノ養相成ル節ハ實祖母ハ表祖母ノ由儀ノ忌云

云々

書云ノ通ハ實父ノ實母其日他家養子ノ相成ル節ハ實祖

母中減ノ服忌ニ作

但父養祖母ノ中書ノ養相成ル他家相續ル音子ノ相成ル節

完初之養母服忌年一子実方之養祖母服忌年

一 純祖母服忌年

寛政六年二月 野村休哲公史合

一 父之純母之忌服孫ハ妻日清ハ代

出如之通ハ父之純母服忌年

但祖母ハ極古方之父純母之養子致ハ祖母定式

服忌之儀

一 父妾腹之嫡母之養之成ハ時養祖母服忌定式

寛政六年九月 海白出 雲出公史合

父妾腹之嫡母之養之相成 家惣相續ハ一ハ之ハ子ハ嫡母ハ養

祖母之須ハ得ハ忌服ハ之儀ハ相心得ハ

書如之通ハ祖母定式之服忌之儀

一 父妾腹之嫡母之養之成ハ其子他ハ養子ハ行実百喜祖母服

忌年

寛政六年九月 逸見左門公史合

一 實父方實祖母

右者私實父海日洛軒信名之姑云係以妾媵之嫡母之養相成以  
私儀半減之忌服請之

書通之通六實父之妾媵之嫡母之養成其子他之養子  
死則不婚之實父方養祖母服忌之

一 父嫡腹之孫母之親之成養祖母親類皆忌之

實政六宮之月深津之水今守令

一 嫡母之子孫母及養母之父定以者

右養母方祖母之外之親類服忌之



書通之通十服忌之

一 父先腹之孫母之養成以者之子孫祖母服忌之

實政六宮十一月織田丸由乃監令用合

織田丸由乃監令用合  
孫母父存生之向養母之定也  
右孫母  
死云之時六十之月之忌服請以儀之  
孫母父存生之向養母之定也  
右孫母祖母相當之忌服請以儀之  
孫母父存生之向養母之定也  
忌服如何相忌得之

書通之通六實父之子孫母及養母之定也  
孫母父存生之向養母之定也

服忌文一其外養母亦親類服忌也一其子一為父一為  
母一祖母一亦得并服忌也一

一 父妾腹之妾他に嫁りて祖母服忌定式并其妾他に親類  
行は得ず半減

寛政五丑六月湯川一雲公時各

一 祖父一妾八父一實母祖父死之後他に嫁りて其後出生るる祖母に續  
對面ハ其妾ハ通語改ハ得ず右祖母死ハ所ハ定式ハ服忌可清ハ  
對面也一 通語不改ハハ服忌別有ハ一ハハ是又兄弟等他ハ養子  
成実言祖母に續ハ得ず對面通語也一 得ず服忌行有ハハハ

書通一 通ハ祖母妾也他に嫁りて其後出生るる祖母に續  
對面ハ他ハ養子に相越ハ得ず實母死ハ後ハ服忌定式

一 祖父本家ヲ絶ハ本家ヲ絶ハ其縁ハ祖父也

寛政六亥十一月杉平阿波吉人開合

一 本家某  
本家ハ本人ハ其妾ハ本家之嗣子也一ハ其妾嫡子に相續ハ任  
本家ハ家督也絶

一 未家某  
嫡子ハ其得ず親事家と絶ハ同去前代相續也

右本家ヲ絶ル者病氣ハ其未家と相續也ハ者一ハ其妾源ハ得ず由ハ  
他家ヲ絶ル得ず半減ハ相越ハハ女子ハ其妾源ハ得ず定式ハ其妾源ハ

書面（通）祖父本家相續之由縁他へ養ふ相續り  
実父方祖父其後本城へ贈忌之儀  
但他へ嫁ハ女子方本城へ贈忌之儀

一 分地配當等へ養祖母贈忌之儀

一 継孫方嫡祖母上對 嫡孫方継祖母上對 贈忌之儀

一 継母上養母之定り時其孫方養祖母贈忌之儀

寛政四子十二月細川越中守との合

一 家督相續分他死云々養父母死云々時養子方へ忌指清り儀贈忌  
合此類ハ右書ありしより養祖母へ忌指ハ何志得下り

一 嫡母死云々時嫡母へ唱斗之忌服より方祖母忌指之儀  
継母之唱斗之先妻へ子方回復儀ハ相心得下り

書面へ二ヶ條服忌之儀

一 父継母より養母之定り時継母方へ親類贈忌之儀  
養母成りし継母方継母位叔父相繼之儀忌之儀  
儀ハ相心得中ハ継母へ養  
ひてぬら子へ孫方継母死云々時継母方祖母へ忌服之儀  
清り儀ハ相心得儀

之由通ハ父継母上養母之定り時ハ養母方忌指之儀  
清り儀ハ子方継母方定り時贈忌儀ハ方孫方一  
日之忌指  
其外継母方親類贈忌之儀

服忌令條例十二

曾祖父母

一 養育曾祖母實父實母者服忌卅日定式

實政六宗六月是初至終不用各

一 祖母實父母者服忌卅日定式

養育之類小其後老也病氣有之之月私養子相成以右者實母者祖  
母之類之類小其後老也病氣有之之月私養子相成以右者實母者祖

書由一通之儀

一 養育曾祖母實父實母者服忌卅日定式

實政六宗九月海日出雲古分用各

一 去雲古曾祖母實祖母之類小其後老也病氣有之之月私養子相成以右者實母者祖  
母之類之類小其後老也病氣有之之月私養子相成以右者實母者祖

書由一通父兄養育之類小其後老也病氣有之之月私養子相成以右者實母者祖

凡去入也其類之類小其後老也病氣有之之月私養子相成以右者實母者祖

一 養育曾祖母實父實母者服忌卅日定式

書由一通之儀

寛政六年十一月 越川長門守公家

一 養方之父母祖父母実方之祖母ノ類ノ者若政病死ノ忌後如何清可也作

但家女之類同断之儀也

云々通ハ養方之祖母之類ノ類忌之儀家女之類同断也

一 又養方之父母ノ實方之祖母父母服忌云々

寛政六年四月 杉平大捨頭公家

一 又ノ実方之祖父母ハ其ノ母祖父母ノ後相成ハ忌後如何之儀也

書如通ハ服忌云々

一 祖父養方之祖父ノ実方之祖母服忌

寛政五年五月 永井友右公家

一 母祖母

右方永井易解由徳祖母由母方之祖母父母之類ノ者若政病死ノ忌後如何清可也作

先ノ物解由二男之祖父何実方之祖母ハ忌後如何相成得下也

云々通ハ祖父ノ實方之祖母服忌云々

一 祖父并父之養方之祖母服忌云々

寛政六年二月 牧野備前守公家



父後河吉家子

牧野備前守

只代先物野河吉家子

明仙院

右明仙院儀定以承後河吉家子之成也其方始前守母相高以儀  
定武定二十日服卒日之成也此後河吉父後河吉在養子之相續  
仕而十服忌表則可有此後河吉也

出而一通養子家子之成則亦父言母後母定武  
服忌之儀

一 養父母之母言母祖父遠為定武

實改之云之り、高来之水而公男也

一 養父母之母言祖父其身、母言母祖父、若此以水也、八忌服如何相心得  
可也

出而一通養父母之母言母祖父一日一忌之也、

一 父言母祖母家女言母祖忌定武母言母祖母家女言  
不及遠之也

實改五已女月、杉平又七師、

一 父娘 孫 言  
母前女

右母方有祖母服忌等  
書面一通  
右母方有祖母也女之所得也及等意也

一 有祖母 父 嫡子

右書面一通  
嫡子 為有祖母の母方 有祖母と相心得在在也

書面一通  
父方の有祖母也女之等意也 服忌等後

一 乙他に養行實方高祖母有祖母服忌等

寛政六年十一月牧野依後考ふ事

服忌令養父母之系り、實方に親類ハ父母定或に服忌了清

祖母伯叔父姑ハ半減し服忌可受之  
兄弟姉妹ハ相生半減し

服忌可受し以外に親類服忌等

右有祖母之有  
所得ハ有祖母有祖母服忌等ハ

書面一通  
等後

